

## ◆朱雀門隣接地の調査 — 第307次

はじめに 朱雀門地区案内所建設にかかわる発掘調査。トレンチの場所は、朱雀門にとりつく東側の南面大垣から2m南の塙地で、朱雀門東端から15~25m東の位置に、東西に長い10m×6mの発掘区を設定した。

**検出遺構** 発掘区の東南部分は第130次南調査と重複した部分で、それはトレンチ全体の45%を占め、さらに発掘区中央にヒューム管が走り、それを残すように掘り下げたため、新たな調査部分の面積は約20m<sup>2</sup>となった。

検出した遺構は溝状遺構1条のみである。溝状遺構SD18170は東西方向にのびるもので、幅60cm、深さ25cm、東西3m分を検出した。しかし、それは発掘区東半部に

は連続して続かない。溝内からは遺物が出土せず、時期は不明だが、溝自体は地山の灰色砂上で検出した。

これまでの平城宮南面大垣南の調査では、大垣本体の築地土部分のすぐ南に鋸歯状の掘込地業があり、大垣心から南12mで二条大路北側溝を検出するのが通例であり、その間に、建物の柱穴を検出することはほとんどない。今回の調査においても、柱穴は全く検出しなかった。また、南面大垣の犬走り部に接して雨落溝があるとしても、その想定位置はトレンチの北にあたり、今回検出した溝状遺構SD18170は、それに相当するものではない。

(山崎信二)

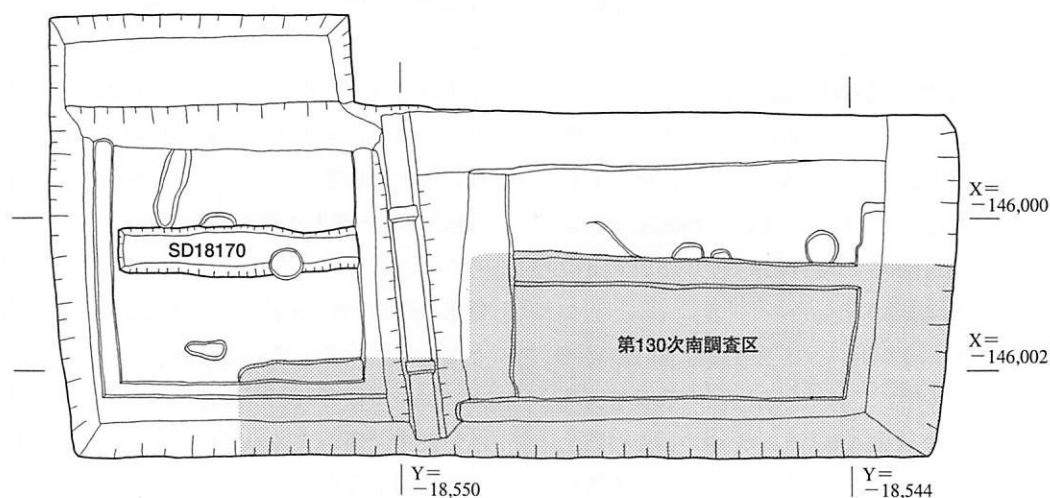


図30 第307次調査遺構平面図 1:80

表7 平城宮跡発掘調査部1999年度現場班編成表

(色文字は総担当者)

春		夏		秋		冬	
石橋 茂登	考古第1	次山 淳	考古第1	清水 重敦	遺 構	井上 和人	考古第1
川越 俊一	考古第2	高橋 克壽	考古第2	玉田 芳英	考古第2	金田 明大	考古第2
岩永 省三	考古第3	山崎 信二	考古第3	千田 剛道	考古第3	清野 孝之	考古第3
西山 和宏	遺 構	蓮沼麻衣子	遺 構	箱崎 和久	遺 構	浅川 滋男	遺 構
-	-	内田 和伸	計測修景	高瀬 要一	計測修景	中島 義晴	計測修景
館野 和己	史 料	吉川 聡	史 料	山下信一郎	史 料	渡辺 晃宏	史 料